

「ワールド・カフェ？」 聞き慣れない言葉かもしれませんが、でも Meel が目指す方向と同じです。

Wikipedia では、以下のように概説されています。

ワールドカフェ（英語: The World Café）は何人かの会議での討論のやり方（ファシリテーション）の一形式。各参加者が対話を通じて、「気づき」を得ることを目的とする。1995年にアメリカ合衆国のファニータ・ブラウン（Huanita Brown）とデイヴィッド・アイザックス（David Isaacs）が偶然の機会に行う状況になり始まったといわれている。フォーマルな会議よりも、移動も自由なオープンな打ち合わせにより発想が豊かになり、意見も活発になるという思想に基づく。実施例として。

1. 参加者全員にテーマとなる「問い」を発表し、共有する。
2. 小グループ（4人から6人程度）に分かれて、「問い」について対話を行う。得られたアイデアは模造紙に書く、付箋紙に書いて掲示板に貼り付けるなどしておく。
3. 指定した時間が経過したならば、1人を除いてグループを再構成し、新たなグループで議論を深める対話を行う。その際に残っていた1人は自グループがどういったアイデアが出たのか新しいグループのメンバーに説明する。
4. 何回か繰り返した後に、各グループの1人がまとめの報告を全員に行い、アイデアの共有を行う。

が上げられています。

詳しい説明は以下の Web サイト、書籍などをご参照ください。

<http://world-cafe.net/about/about-04.html>

香取一昭『ワールド・カフェをやる』（2017）日本経済新聞出版社

Meel はワールド・カフェのホストとして、テーマ設定および会場準備をします。
予定としましては・・・

- ・会費制で2か月1回程度開催
- ・1回の参加人数は最大20名（Meel 会議室の最大収容人数）、4グループ
- ・カフェ2時間程度の後は懇親会

今後、内容を構築してまいります。

運営のスタート時にはあらためてお知らせいたします。どうぞご期待ください。

Meel ではワールド・カフェを通して、Meel ホームページに掲げた「理念」を実行します。

“Meel”には日本語特有の「みる」、すなわち見る、観る、診る、看るなどを重ねています。特に「観る」に重きを置き、「俯瞰して眺めて全体を知る」（直観）することで「環境・エネルギー・経済」課題の解決の糸口を探ります。

◎産業振興と地球環境良化の両立を目指す。

◎地球と地域、人にも愛を！

環境工学を軸に、より良い未来を求めて「観る」を続けます。